

二〇〇八年度共通科目「総合講座・比較思想A」丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業

日本思想の過去と現在

コーディネーター…安藤信廣

九月二五日 「総合講座・比較思想A 日本思想の過去と現在」

のねらいと概要

日本人の思想は過去から現在に至るまで、外来の思想の影響を受容しながら、独自に多彩な展開をしてきた。丸山眞男が日本政治思想史の構築を生涯の課題としたことは周知の事実であるが、同時により広い視野において日本思想史の全体にかかわる課題をすべく分析したこともまた良く知られている。それだけでなく、その歴史をせおつた我々日本人がどのように思索し生きてゆけば良いのかという問いについても、丸山眞男はたくさんのヒントを残している。

二〇〇八年度後期の総合講座では、そうした丸山眞男の広汎な仕事を契機として、日本の思想の歴史を様々な視点からとらえなおし、その歴史が現在と未来を生きる我々にどう関わっているかを考えることを課題とした。そして、その課題に即して四名の講師のオムニバス形式の講義を企画した。その講義のラインナップは、以下の通りだった。

日本の教育とリベラル・アーツ 一・二・三

雨田英一（東京女子大学教授）

一〇月 二日 日本国憲法・教育基本法（一九四七年）の理念と構
想

一〇月 九日 無着成恭の生活綴り方への思索と実践『山びこ学校』
一〇月一六日 『山びこ学校』後の思索と新たな試み——教育と科
学と宗教——

日本仏教思想の再検討 一・二・三

ゲスト・スピーカー

大隅和雄（東京女子大学名誉教授）

イントロダクション

安藤信廣（東京女子大学教授）

一〇月二三日 仏教の伝来

- 一〇月三〇日 鎌倉時代の仏教革新運動
- 十一月 六日 教団の成立と一揆

徳川思想史像の変遷 一・二・三

平石直昭（東京大学名誉教授）

- 十一月一三日 津田左右吉の徳川思想史像
- 十一月二〇日 丸山眞男の徳川思想史像Ⅰ
- 十一月二七日 丸山眞男の徳川思想史像Ⅱ

近代の軍隊と日本的思考 一・二・三

黒沢文貴（東京女子大学教授）

- 十二月 四日 軍はデモクラティックか？
- 大正デモクラシー期の日本陸軍の変容——
- 十二月二一日 太平洋戦争は「なんとなくずるずると」開戦したのか？
- 一九三〇年代の「失なわれし政治」状況の様相——

- 十二月一八日 歴史認識と戦争責任意識

——戦後日本の歴史学界における「昭和期の戦争」理解——

まとめ

安藤信廣（東京女子大学教授）

- 一月 八日 「総合講座・比較思想A 日本思想の過去と現在」のまとめ

兩田英一氏は、まずリベラル・アーツを、人間的自由を獲得するために身につけねばならない「学力」（構えや資質や力量など）という意味でとらえなおした。その意味で、日本国憲法・教育基本法を根幹とする敗戦後の公教育構想の眼目は、リベラル・アーツ教育の構築にこそあった、という立場を示した。では戦後の教育実践において、人間的自由獲得のためには、どのような「学力」が必要だとされ、どのような仕方で育まれ得ると考えられ、試みられたのか。そもそもそこでは人間的自由はどのように捉えられていたのか。これらの点について、『山びこ学校』で著名な無着成恭の思索と活動を主たる対象として検討し、その意義を明らかにした。

大隅和雄氏は、鎌倉仏教の位置付けの再検討を焦点として日本仏教史について発言した。インドで生まれた仏教は、西域の諸国、後漢・魏・晋・南北朝時代の中国、朝鮮の三国を経て、一〇〇〇年後に日本に伝えられた。諸地域の信仰を習合した教へと、中国語訳の仏典は、日本人にどのように受け入れられたか。日本人にとって、仏教とは何であったのかという基本的な問題の全体を、再検討した。大隅氏は、まず仏教の伝来が、日本史の中で持った意味、聖徳太子の果たした役割、統一国家を目指していた当時の国家と社会の中で、仏教はどのように位置づけられていったかを検討した。次に、外来文化センターとしての寺院の役割を検討した。その中で、伝来後数世紀を経て、仏教が宗教として理解されるようになり、新しい経論

の理解を唱える祖師が現れた過程を示した。さらに宗教活動が盛んになるにつれて、教団が生まれ、教団の組織が整えられる過程に触れた。その活発な布教の下で、信徒の拡大を目指す教団は、地域の領主と対抗して一揆を起こすに至るが、その特徴と意義について検討した。

平石直昭氏は、「歴史はつねに現代からの歴史である」という言葉を前提に、近現代の日本人が徳川時代の思想史をどう描いたかという問題を講義した。まず平石氏は、津田左右吉の『文学に現はれたる我が国民思想の研究』が、大正時代に書かれたにも関わらず、いまなお新鮮さを失わない学問的な金字塔であることを示した。そして、この本に即して、津田左右吉の徳川思想史像がどのような関心や見方を基礎にして作られているかを検討した。続いて、戦時期の丸山眞男が、一方で「近代の超克」という時代風潮に抵抗しつつ、他方では中国と異なる道を辿った日本の近代化を思想的に跡づけようと苦闘したそのプロセスを、克明に追求した。戦後にまとめられた『日本政治思想史研究』は、そうした努力の結晶である（東京大学出版会、一九五二年）が、同書に即して、当時の丸山眞男が西洋近代や中国と比較しながら、どのように徳川思想史像を描いているか、またいかに津田の徳川思想史像を乗りこえようとしているかを検討した。最後に平石氏は、丸山の徳川思想史像が、戦後の日本社会の変容を背景として、日本思想史の全体的関連に対する彼の認

識の深化や問題関心の推移などとともに、戦後に大きく変化したことを示した。一九五〇年代後半に書かれた『日本の思想』や『忠誠と反逆』などの論文はその一端を示しているとし、『丸山眞男講義録・第七冊・日本政治思想史一九六七』（東京大学出版会、一九九八年）を中心に、そうした変化がどのように体系化され、まとまった形をとったかを検討した。

黒沢文貴氏は、日本が太平洋戦争に突入するプロセスを再検討することによって、日本の戦争政策・軍部の意思決定の実態がどのようなものであったかを究明した。丸山眞男が『現代政治の思想と行動』所収の諸論稿や飯塚浩二『日本の軍隊』所収の座談会において、日本近代および日本の軍隊に対する鋭い考察を行ったことをふまえながら、従来「するすると開戦に至ってしまった」とみなされがちだった太平洋戦争が、必ずしもそのようなものではなかったことを示した。昭和期の軍上層・中堅幹部は、主に第一次世界大戦の経験を教訓とし、近代戦が総力戦とならざるを得ないことを察知していた。そのため、国家体制の変革や国民動員のしくみの創出を、早くから考えていた。そのためには、軍部はむしろ普通選挙などのリベラルな施策を望んだことさえあった。そうした軍部の近代的総力戦準備の過程と日本政治の動向がどのように関わりあいながら開戦に至ったかを、解明した。黒沢氏は、丸山眞男の学術的功績に触発されながらも、近代の軍隊史を克明に洗い直し、丸山の指摘の問題点

に歴史学の立場から接近した。

全体の講義は、現在の日本思想史研究の最前線に立つものであり、きわめて刺激的な内容だった。各講師の熱心な講義は、受講者に深い印象を残したと考えられる。毎回の受講者の感想文・質問票には、非常に真剣な意見や高い評価が記されていた。社会人受講者からは、度々熱心な質問が出され、最後まで熱気にあふれた授業が行われた。また「丸山文庫関係の授業・講演にはいつも社会人の参加者が多い」というのがこれまでの定評だったが、確かに社会人の参加者が多いなか、本学学生の受講者もきわめて多かったことは特筆すべき成果だったといえよう。日本思想史の様々な問題や、それにアプローチするための各講師の独自の方法、さらに丸山眞男の提起した問題認識のあり方などを、自分自身の生き方・考え方の問題にひきつけて理解しようとする本学学生の態度が印象にのこった。各講師には、難しい問題につき明快な講義をしていただき、心から感謝申し上げます。

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター 公開授業
2008 年度後期 受講者募集のご案内

当センターでは 2005 年度から、丸山眞男並びに広く比較思想を講ずる科目として「比較思想A」「比較思想B」「総合講座・比較思想A」「総合講座・比較思想B」の 4 科目（半期完結）を設置しております。そのうち、2008 年度は、前期「比較思想B」、後期「総合講座・比較思想A」を開講し、学部学生とともに学外の方々にも公開いたします。

○科目名：「総合講座・比較思想A」 **日本思想の過去と現在**

○授業概要

日本人の思想は過去から現在に至るまで、外来の思想に影響されながら、多彩な展開をしてきました。『日本の思想』等、多くの著書を著した丸山眞男は、日本思想の歴史をすどく分析しただけでなく、その歴史をせおった私たち日本人がどのように思索生きてゆけば良いのかという問いについても、たくさんのヒントを残しています。丸山眞男の仕事を契機として、日本の思想の歴史を様々な視点からとらえなおし、その歴史が現在と未来を生きる私たちにどう関わっているかを考えたいと思います。

コーディネーター：安藤 信廣（本学教授）

回	日	テーマ	講師名
1	9/25	イントロダクション	安藤 信廣 東京女子大学教授
2	10/2	日本の教育とリベラル・アーツ 1	雨田 英一 東京女子大学教授
3	10/9	日本の教育とリベラル・アーツ 2	
4	10/16	日本の教育とリベラル・アーツ 3	
5	10/23	日本仏教思想の再検討 1	コーディネーター 安藤 信廣 東京女子大学教授
6	10/30	日本仏教思想の再検討 2	ゲストスピーカー 大隅 和雄 東京女子大学名誉教授
7	11/6	日本仏教思想の再検討 3	安藤 信廣 東京女子大学教授
8	11/13	徳川思想史像の変遷 1	平石 直昭 東京大学名誉教授
9	11/20	徳川思想史像の変遷 2	
10	11/27	徳川思想史像の変遷 3	
11	12/4	近代の軍隊と日本的思考 1	黒沢 文貴 東京女子大学教授
12	12/11	近代の軍隊と日本的思考 2	
13	12/18	近代の軍隊と日本的思考 3	
14	1/8	まとめ	安藤 信廣 東京女子大学教授

期 間 2008 年 9 月 25 日 ～ 2009 年 1 月 8 日 (12/25, 1/1 は授業なし・全 14 回)

時 間 毎週 木曜日 4 時限目 (14 : 55～16 : 25)

会 場 東京女子大学 (教室は当日正門付近の掲示板でご案内します)

対 象 原則として 18 歳以上の男女

定 員 30 名

受講料 10,000 円 テキスト代等は含みません。なお、一度納入された費用は返却いたしませんので、ご了承下さい。

【申込方法】 下記の申込用紙にご記入のうえ、6月30日（月）までに教育研究支援課宛にご郵送ください（必着）。

【結果通知】 7月末までに結果通知はがきをお送りいたします。申し込み多数の場合は、抽選の上受講者を決定いたしますので、あらかじめご了承ください。

【受講手続】 受講を認められた方は、結果通知ハガキと受講料 10,000 円を、授業初日に会場にお持ち下さい。

請求・送付先： 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
東京女子大学 教育研究支援課「公開授業」係
TEL: 03-5382-6453
月～金・9時～17時（11:25～12:25を除く）

【ホームページ】 <http://office.twcu.ac.jp/support/>

授業の単位は認定されませんので、あらかじめご承知おき下さい。

受講申込書にご記入いただいた個人情報は、当該公開授業の運営のみに利用いたします。

-----キリトリ-----

2008 年度後期 丸山眞男記念比較思想研究センター公開授業 受講申込書

ふりがな 氏名		年齢	性別	男・女
住所	〒			
電話番号				
受講の動機				

東京女子大学 丸山眞男記念比較思想研究センター